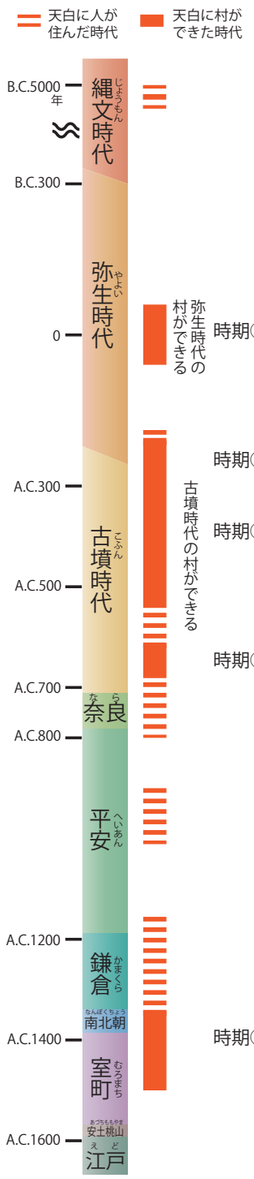
天白遺跡

天白遺跡は、東浦町大字緒川字天白地内に所在する縄文時代早期から近世にわたる集落遺跡です。土地区画整理事業による開発事業に伴い、平成29年度に約4,300㎡の発掘調査を行った結果、122棟の竪穴建物をはじめ土坑などの遺構が重複して数多く検出され、大きな集落が弥生・古墳時代を中心にこの場所に形成され、人々が暮らしていたことが明らかになりました。

【天白遺跡年表】

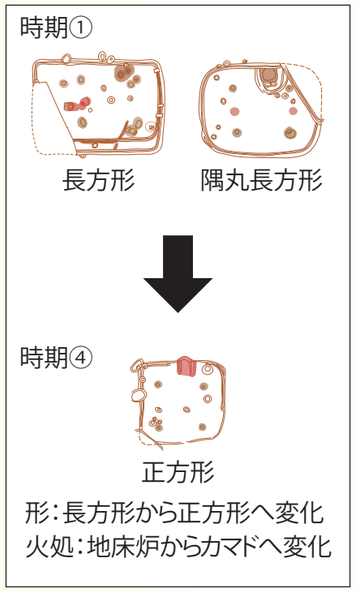


天白遺跡の時代

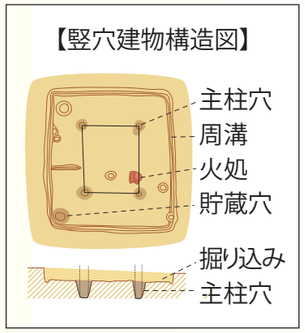
遺跡の始まりは、縄文土器の出土から約7,000年前の縄文時代早期後葉です。その後空白の時期があり、弥生時代中期後葉から本格的に集落が形成されます。竪穴建物の数により、集落の時期にいくつかのまとまりがみられ、古墳時代を通じて集落が断続的に続いていました。なお、奈良・平安時代以降になると竪穴建物がみられなくなりますが、遺物の出土から掘立柱建物など竪穴建物とは異なる形態の建物が建てられ、規模は小さいながらも古代から中世・近世も人々が生活していた思われます。

【天白遺跡の主な時期】	【時代が分かる竪穴建物の数】
①弥生時代中期後葉～後期前葉 最盛期	①42棟
②弥生時代終末期～古墳時代前期前半	②18棟
③古墳時代前期後半～後期前半	③13棟
④古墳時代終末期～奈良時代	④10棟 ↓ 掘立柱建物へ
⑤中世（14世紀後半～15世紀代）	

【竪穴建物の変化】



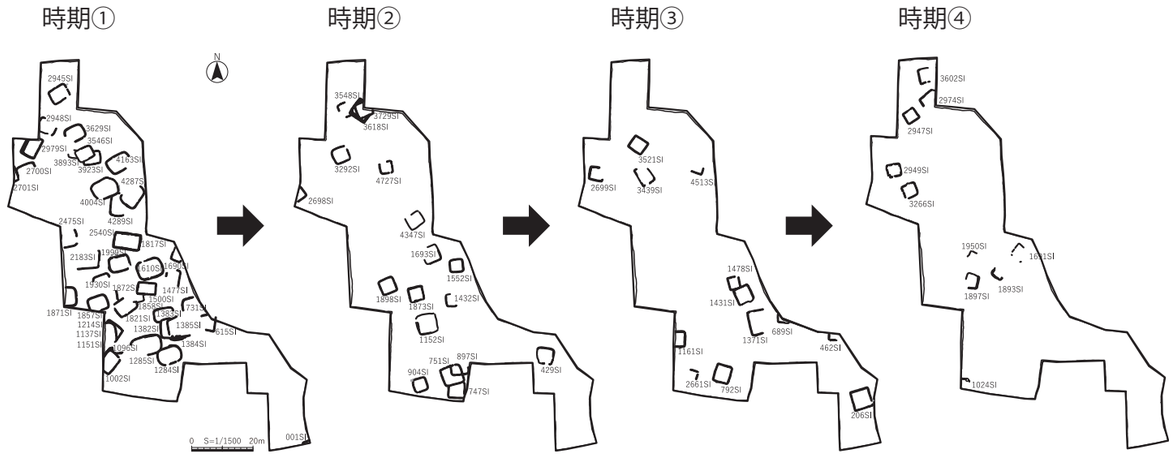
【竪穴建物構造図】



■竪穴建物の形の変化

今回の調査では広い面積を面的に調査できた結果、竪穴建物の形や大きさなどの形態が、時期によって変化している様子をうかがうことができました。

天白遺跡調査区全体航空写真



竪穴建物変遷図